

マイケルJローズ ニュースレター 2007年 冬号



素晴らしい光の存在である皆さんへ、
お元気ですか？庭では蠟梅の花が咲いています。近づくと優しい香りがします。
豊かなひと時です。
最近自分を大切にするために決めたことがあります。
過去にも未来にも囚われないことです。犠牲者意識もいりません。ネガティブなエネルギーの影響も受けません。
そのための自分自身への合言葉は「ガンダルフ」にしています。過去に思いがいたり、不安がよぎったりしたとき、「ガンダルフ」と自分に言うのです。自分で決意することはとてもパワフルですすぐにこの瞬間に戻ることができます。
もう一つ大切にしていることは、ぐずぐずしないです。
去年の暮れから私の中でパワフルに変化が起きています。
自分の現実はすべて自分が作っている。私が選択している。だから、決めました。
決意する、自分で決めることが、これほどパワフルとは思いませんでした。

新しい日々が素晴らしい毎日でありますように！
自分のことを大切に、大切に、ゆるやかに、のびやかに過ごしてください。

たくさんたくさん愛を込めて やすみ

マイケルのお話 by マイケル



クリスマスを楽しんで過ごされたことと思います。新しい年が豊かな実り多い年であることを願います。ただ、それを実現させるのはあなたです。まず、願い、豊かさ、そういったものを自分が受けるに値すること(自己批判は、このことを否定することになります)を受け入れなければなりません。それから、その実現に向かって自分でハンドルを切り替える必要があります。

スピリチュアルな充足か、経済的な充足かの優先順位をあなたには決める必要があるかもしれません。両方とも、と答える人がいるでしょう。無論、可能です。しかし、多くはあなたの魂次第です。あなたの向かうところと、あなたの魂の向かうところは違いますか？それとも、共に歩んでいますか？

トリーニーが亡くなってから、私が今これほどの平安を感じられるとは、この瞬間にいてこれほど完全であると感じられるとは思っていませんでした。想像してみてください。まったくの完全を！

不思議なことですが、トリーニーが生きていた頃よりも、彼女とさらに近くなっています。考えることもできない、想像もつかない、見ることもできない、知ることすらないより偉大な現実をあなたが深く信頼するとき、神秘的な不可思議が起きるようです。スピリチュアルな錬金術が解き放たれ、この瞬間から不可能なことが、すべて可能となるのです。

これは限界を超えていくことについてです。この限界は日常生活において作り出されたものであり、誰からも当たり前とみなされている限界です。

時には、思いもつかないことが起こり、心の痛みがあまりにもひどく、何もする気力がなくなり死ぬことしか考えなく

なることがあります。しかし、あなたは死にません。死ねません。生きて、ある日、真実に直面しなければなりません。ひどい痛みの原因が最愛の人を失ったからではないという真実に、です。

それはあなたが選んだことです！意識して選んだ選択ではありません。大多数がする選択です。死が喪失と悲しみの原因であるという信念の選択です。測り知れない年月の悲しみによって強められた痛みのある強力な信念です。しかし、その信念は真実ではありません。

この力強い信念を終わらせる方法は、それを無視したり、否定したりするのではなく、幻想と繰り返しから歩み出て、真理へと向かうことです。

次のように理解する人もいるでしょう。それは古い物語から出て、真新しい物語へと歩いていくことであり、この新しい物語は、この瞬間の真理のなかにあると。そうです。とてもシンプルです。しかし、簡単ではありません。新しさとタイミングにオープンでなければなりません。

トレイシーの「事務室から」を読みました。書こうと思っていたことがすでに書かれていました。先に書いた者のほうが美味しいところをさらっていくものです。しかし、カワセミのことを書いていましたが、決まってやってくるワラビーのことは知らないようです。早魃の間、野生動物が食べ物に困らないよう私はフェンス越しに近所の林に野菜くずを投げ込んでいました。ワラビーたちは可愛い顔で背筋をまっすぐにすると腰ぐらいの高さになります。

庭の水やりを止めてから5年か6年になります。洪水や早魃に耐える植物を見つけるのに時間はかかりません。家は丘の上にあるので洪水は考えられませんが…。トリーニーへの喪失感と悲しみにうちのめされてアメリカから我が家に帰ってきたとき、私は庭の手入れをやめました。しかし、トリーニーが庭を楽しんでいるから手入れするようにと私を励ましました。彼女と共に、私は再び庭の手入れを始めました。

彼女に花の香りが嗅げるのかどうか聞いてみたときのことです。香りは、独特のエネルギーとなり、色や音や香りとして感じると答えました。実際、彼女が何を言いたいのか私にはわかります。最近、パン(訳注:自然界を統括する偉大なるスピリットのこと)といるとき、その経験をしたからです。より高い領域において、色は言語であることを私はパンから学んでいるところです。たとえば、黒という色をとっても、その色の色調、明暗、エネルギーによって何百という異なった意味があるのです。しかし、これは肉体を超えたメタフィジカルな世界で起きていることです。

キャロリン(ローズウェイニュースレターの編集者)とジミーが、再び一緒になったことを大変うれしく思います。私の愛する二人が別れ、その間に、お互い成長し、再び、新たに共に生きることになったのです。人間の魂がもつ働きと深さに驚嘆します。その過程をあなた(アイデンティティ)が反対しても、魂はあなたの限界を超えていきます。

あなたたちの愛が無条件の愛になりますように！

新年です。私にとってこれまでとは大変異なる年です。もうトリーニーの旅券を買う必要はありませんが、彼女はローズウェイ・ツアーに同行することを約束してくれました。私にとって 2007 年はまったく新しさの年となるでしょう。これまでのリトリートは終わりました。今年からは5日間のニュービギニングが始まります。

私は新しくなり、人生も新しくなりました。

あなたは新しさを感じていますか？

新しさへの準備ができていますか？

愛と光の中で

質問と 洞察

by マイケル



質問とは、自分の外に答えを求めていることを意味します。覚えておいてください。質問があるときは、あなた自身のより深いところにすでにその洞察があります。それが一体性というものです。このコラムはあなた自身の内なる洞察や知恵への飛び込み台となるものです。

質問： 癌を患っている友人がいます。肯定的であることと、否定する、認めないことに違いはありますか？

洞察： 大きな違いがありますが、その違いはとても微妙です。このことに気づいていると思っている人さえ、見過ごしてしまいます。癌を例にとってみましょう。私たちが住んでいるサンシャインコーストは皮膚癌が多いことで有名です。殆どどの腫瘍は無害ですが、黒あるいは黒褐色の黒色腫は致命的なものです。私は、黒色腫にかかった人を知っています。1人は、瞑想で治癒しようとしてました。もう1人は、できた場所がいつも服に覆われている部分なので無視しました。別の1人は黒色腫を認めることすら拒否しました。認めることが腫瘍にエネルギーを与えるからと。3人とも否定しました。この中の1人だけがまだ健在です。その人は大手術を受けました。

もし、腫瘍があれば、認めなさい。恐れやショックをとまいませんが、体に起きていることを直視するのです。腫瘍は、心も含めた全体的なあなたのどこかに不具合があることを示しています。あなたが間違っているとか悪いということではありません。

メタフィジカルな側面から見たとき、腫瘍は感情的な問題を示しています。多くの場合は怒りです。怒りは腫瘍を作り出します。その他のネガティブな感情も腫瘍を作り出します。

原因となっているのは「ネガティブ、否定的」です。腫瘍の原因となるものを無視しては、何も起きません。ネガティブな要因が腫瘍を引き起こすのです。

賢明な方法はあなたの中にあるネガティブな感情を認めて、その感情を肯定的なものに変えることです。原因を取り除けば、影響を及ぼしているエネルギーをすべて取り除くことになり、治癒する可能性は大幅に増えます。ポジティブな取り組みは大変能動的ですが、否定はまったく受動的なものとなります。

瞑想はとても力強い積極的な方法ですが、どんな瞑想をするかによります。瞑想には受動的なものと同動的なものがあります。治癒の方法としては能動的な瞑想が大抵の場合効果的です。腫瘍が消えていくイメージを作り出すビジュアルな瞑想は有効です。しかし、腫瘍は結果として現れています。

だから視覚と想像力を使う瞑想は、原因を変化させるような瞑想にするべきです。全体的なあなたと、特に感情と調和しなければなりません。そういった瞑想は、自分への愛、自己受容が根本に必要です。

瞑想で怒りをすぐに追いやめることはまれですが、年数をかけることで、内にある怒りの原因を解き放つことができます。しかし、癌などで時間に限りがあるときは、積極的な内面への探求が必要です。そのとき善悪の判断を、批判をしないことです。探求することで原因が示されます。

そうしてトリーニーがよく言っていたように「Let go, let go, let, go」です。そう、手放すのです。

質問： 人生は旅であるとよく聞きます。この旅はどこで始まり、どこで終わるのですか？どうして、私はこの旅を始めたのですか？

洞察： 人生は旅です。このことに疑いはありません。しかし、直線の時間はこの旅とは関係ありません。この旅は時間も空間も、物質も感情も超えたものであり、質問も答えも及ばないものです。しかし、一度、身体的、感情的、心的な喜びとトラウマを経験すると、このすべてが私達存在の一部となります。こうして、その旅は一人一人の中にその人にしかないものを作り出します。これを、私たちは個性と呼びます。

この言葉にもかかわらず、私たちの個性は、いまだ未発達です。私たちは群集の一部として考え行動します。笑いは笑いを起こします。怒りにはたいてい怒りで反応します。未知を恐れ、意地悪には簡単に意地悪で対抗します。多くの人が人生を恐れ、愛することを恐れています。特に自分を愛することに恐れを抱いています。

共にパニックになったり、共に泣いたり、共に群れたりします。「お互いさま」の関係になります。お互いに高めあい、お互いに足の引っ張り合いをします。宗教を、知的信念を、感情的混乱を、生命へのひどい無知を分かち合います。このリストは延々と続きます。

しかし、私たちは旅の途上です。この旅は始まりも終わりもありません。始まりと終わりは、私たちの思考が作り出した制限に過ぎません。旅は永遠に続きます。なぜなら私たちは大いなる存在であり、無限が私たちの故郷です。今ある私たちはこれ以上にも以下にもなりません。なぜなら、私たちは偉大さの種であり、大いなる愛を表現する花だから、です。

私たちが、すべてであると信じている小さい宇宙も、私たちが実際に生きているこの多次元の宇宙も、私たちを制限す

ることはできません。なぜなら、それぞれが、概念とより偉大な現実の教室だからです。そこで私たちは知的な訓練、概念のゲームをしています。けれども、子猫がボール遊びで獲物を捕まえる能力を発達させるように、このゲームは人間の精神を発達させます。

今のところ、旅の途上であり、より偉大な現実は私たちの手に負えるものではなく、そのため、私たちが作り出している教室の中で技術を磨いています。今、私たちは、感情体とは飛びぬけて強力なものであることを学んでいるところです。私たちは、物質的かつ精神的なゲームをしています。概念の学び・知的な訓練から人生に関わり、富が成功であるという考えを作り上げます。幼い子供たちの遊びよりも劣る概念のゲームです。

私たちは旅をして、感情的な執着が人生の方向を決めていることを学びます。成功としての富を後に残して死ぬたびに、私たちはその感情的な執着をしっかりともったまま死という幻想の中に入ることを、未解決の感情的な執着をすべてもっていくことを学びます。

無限への私たちの旅の途上、私たちが不滅の大いなる存在であることを学びます。人生とは計り知れないほど大切に聖なるものであり、私達一人一人が神の輝きであり、絶えることなく成長し、愛と光を絶えず広げ行く大いなるセルフ、神を表していることを学びます。

質問： マイケル、あなたを残していったトリーニーに怒りを感じたことはありませんか？あるいは連れ去った神に対しては？もしそうなら、あなたはどのように対処しますか？4年前にもうこれ以上関係が続けたくないからと言って、私のパートナーであり友人だった彼が去ってしまいました。彼が去ってからずっと怒りに支配されているようです。いい気持ちはしません。

洞察： 私の悲嘆のプロセスは、一般的なものよりもはるかに穏やかなものでした。愛する人を失ったとき、4つの基本的な段階があります。ショック、怒り、否定、受容の4段階です。平安な心境になるまでに以上の段階を経験するのに普通2・3年かかると考えられています。トリーニーが亡くなったとき、私は絶望的なショックを受けました。感情的に打ちのめされました。何が起きたのか理解するのに苦しみました。突然の出来事だったので準備する時間ありませんでした。ショックでした。怒り・・・怒りはまったくありませんでした。死を信じていません。だから、これが一時的な別れだということを知っています。私はトリーニーを深く愛しています。私が愛する人に怒りを持ち続けることはできません。怒りを感じたときも、ほんの一瞬でした。相手への愛があるので、怒りを持続できなかつたし、怒りはすぐに小さくなりました。スピリチュアルな覚醒以来、私は怒りを経験していません。このことについてはニュービギニングで話します。

怒りについて述べましょう。はじめの洞察に書いたように怒りは、大変危険な感情です。怒りはいつも執着と関わりがあります。考えてみてください。あなたがまったく囚われていないことに対して怒りをもつことができるかどうか。怒りがあるときは、いつも何かに執着しています。たくさんの執着があります。結果に対する執着、正義に対する、自分の信念に対する、理想に対する執着、欲望、必要性、他人に対する囚われ、自分が望むようになってほしい、人から愛されたい、必要とされたい、望まれたい、・・・たくさんの囚われがあります。

怒りを抑えようとすることで怒りに対処することはできません・・・そうすると、怒りに火を注ぎます。掴んでいるものを手放すことで怒りに対処できます。つかんでいるものを本当に手放すと、怒りのエネルギーがなくなります。

あなたのパートナーであり友人であった彼が、あなたとの関係を望まない。それは、彼の選択であり、彼はその選択をする権利があります。ショックを受けたあと、あなたに怒りが湧いてきました。あなたは、彼や彼との関係を手放したくないのです。何事も偶然はありません。魂のレベルであなたは自分の中にある怒りに対処することを決めているのです。それで、彼があなたにその機会を差し出してくれたのです。怒りがあるということは、あなたがその贈り物を拒否していることを意味します。

トリーニーの「死」は私への贈り物だと彼女は言いました。

彼女への感情的な執着が、私のスピリチュアルな成長を妨げていました。そのことを私にはどうすることもできなかったけれども、彼女は違いました。トリーニーには私に対する感情的な執着がありませんでした。彼女は、スピリチュアルな成長を加速させる贈り物を私に与えてくれました。もし、私とその贈り物を受け取れば、です…私は受け取りました。あなたも同じように受け取ることをすすめます。「かわいそうな私」という感情は手放しなさい。

スピリチュアルな成長を促す贈り物を与えられて本当に祝福されていると思うのです。

怒りがあなたを攻撃する前に、そうすることを勧めます。

なぜなら、怒りをもっている人は、怒りを向けられる人よりもはるかにダメージが大きいからです。

生命はいつも私たちに贈り物を差し出しています！

ゼンの子育て by カトリーナ・ローズ



ゼンを育てています。その中で、社会に対する見方、自分の考え方、話し方、行動の仕方の多くが、両親や子供の頃交流のあった人々から受け継いでいることがはっきりしてきました。

私たちがマイケル、トレイシーと一緒に暮していたときのことです。私たちと一緒にシャワーを浴びたゼンは、浴室から裸で飛び出て(そうすることが大好きです)、グワンダッドとティティ(おじいちゃんのマイケルと叔母のトレイシーのことです)ところへかけていきました。

おじいちゃんは椅子に腰掛けて3部作からなるSF小説を夢中で読んでいました。私は台所にいました。「ワー」というすごい驚きの声が聞こえてきました。続いてトレイシーが「ダメー」と強い語調で叫ぶ声がありました。ラッセルと私は二人で顔を見合わせ、私は急いで何が起きたのか見に行きました。

ゼンは体を曲げて彼のお尻をマイケルのほうに向け、誇らしげにお尻の穴をおじいちゃんに見せたのでした。トレイシーも丁度その場に居合わせました。マイケルとトレイシーは、私に何があったのか説明し、お尻の穴なんか見たくないと言いました。ゼンは二人の反応にまったく驚いていました。

私はゼンに「あなたのお尻の穴はとっても美しいわよ。さあ、もう服を着ましょう。皆が皆、ゼンのお尻の穴を素敵って思うわけではないの。」

ゼンにとってお尻の穴は、彼の腕や、鼻や肘と同じくらい刺激的な発見なのです。彼にとっては魅力的であり、誰かと分かち合いたい体の一部に過ぎません。彼の素晴らしい発見、おならの出る場所を見せてあげたかったのです。子供は皆、おならのとりこになります！ゼンはおじいちゃんに同じように穴があるかも知りたかったし、見たかったのです。

マイケルとトレイシーは条件付けされた反応をしました。よくある反応です。勿論、私もゼンが生まれる前はそうでした。誰も、お尻の穴がきれいだとは思わないし、美しい目や指や他の体の部分と同じように見ることはありません。殆どの方がそうです。

ゼンにとって世界は素晴らしくワクワクするところであり、すべてが同等です…生まれてきたときからそうでした。私が小さいときもゼンと同じだったし、あなたもそうだったでしょう。しかし、成長する過程で、自分自身を判断するよう育てられます。善や悪、これは望ましい、あれは望ましくないなどを学びます。意識して子供を育てていると、このことがとてもはっきりと分かります。

ゼンは2歳半の幼い子供の無邪気さや驚きをもっています。彼は彼の世界を分類しはじめています。私たちの家庭では、何もタブーはありません。彼は、「マミー、僕が大きくなったら女の子になるの?」「違うわよ。あなたはね、ダディのように男の子よ。大きな男になると思うわ。」すると「僕にはペニスあるよね。マミー」と聞くので「そうよ。」と答えます。

「マミーにはワギナがあるよね。」「そうよ。私は女だから、ワギナがあるの。男の子はペニスがあるのよ。」「僕にワギナをもてる?」「いいえ、ゼンは男の子よ。だから、体の作りもそうなっているの。大きくなっても今と同じようにペニスがついているわ。」「そうか。」「ゼンは満足げに言いました。

ゼンはゼンです。彼は私たちの否定的な判断やタブーをすべて打ち碎きます。大歓迎の学びです。多くのことで、より自由になっています。それに彼の開かれたハートを通して人生を見ることが好きです。勿論、とてもチャレンジなときもあります。

誰かが「でも、ゼンは社会に決して適応しなくなるわよ。」と言いました。その通りです。彼は、人々が知っているような意味での適応はしないでしょう。でもそれがハンディになるとは思いません。彼の夢や本当の自分をあきらめてまで、順応することはしないでしょう。でも自分の個性や、人々の個性を素晴らしく感じると思っています。彼にとっては、すべてがまだ初めてのことであり、初めてを楽しんでいます。

スピリットや神とのつながりを定義しなければならないとしたら、それは、「私が感じる喜び」と言うでしょう。どれほどの喜びをどのくらい感じているかが、自分とスピリチュアルなつながりを測る物差しです。ゼンは一日の99%を喜びの中にいます。

あなたの手と同じくらいお尻の穴が好きですか? 体のどの部分も同じように愛していますか? 1日にどのくらい喜びがありますか? ゼンのように自由なところから人生を見てください。

Happy New Year!

たくさん愛を込めて

追伸: お尻のことですが・・・セブンスジェネレーショントイレットペーパーの包装に書かれている言葉をまさかここで書くとは思ってもいなかったのですが、環境保護製品を買うきっかけになるかもしれないので。

「アメリカの各家庭がトイレットペーパー4個を100%リサイクルに変えると、1,450,000本の木が保護されることになりました」

オフィス便り by トレイシー・ローズ



こんにちは。早朝です。自分の縄張りを主張するワライカワセミの鳴き声を聞きながら、椅子に座り窓の外を眺めています。仕事に出かける人々の車の音が遠くに聞こえます。ここサンシャインコーストでは、今日も太陽の日差しが明るく気持ちのよい朝です。でも、どんな天気であっても、霰が降っても晴れても、天候に左右されないで幸せでいようと決めています。

霰といえば、私は、先週大きな霰の嵐に見舞われました・・・父の車に乗っているときでした! 2週間ほど強風が吹き荒れていました。そんなある日、私の車は定期点検中だったので、父の車を借りました。車で30分ほど離れたところに住む友人を訪ねたのです。彼女のところにいるとき、ひどい嵐が近づいて来る様が見えました。そのため急いで友人宅を去りました。丁度半分くらい走ったとき、小さい放牧場に雷が落ちて燃え始めていました。あわてて携帯を取ろうとしたとき、ドサツという音がしました。シマツタ! 私は、近くのフェンス沿いにある大きなイチジクの木の下へ車を走らせました。もうすでに車が一台避難していました。それから15分ほど、至る所に降ってくるゴルフボール大の霰が当たらないように祈っていました。母にも祈りました。

2インチほどもある氷が、激しい雨で洗い流されてから、私は家へ帰りました。「ねえ、父さん、こっちへ来て車を見てよ」父は車を見てただ肩をすくめました。

一週間後、保険会社が車の修理にかかる見積もりを計算してくれました。見積書の数字は8500ドルでした。

猫が1匹減りました。私の飼い猫だったカドルは我が家に落ち着くことはありませんでした。我が家は男性が優勢の家庭です。父、ラッセル、ゼン、小鳥たち、それからウォータードラゴンさえも雄です。カドルは男性優勢のエネルギーに慣れることができませんでした。彼女はお漏らしをするほど神経過敏になってしまいました。それで、静かで女性性が支配的な家庭で彼女を飼ってもらうことにしました。そこで彼女は愛されてのびのびしています。

.....

ラッセル、カトリーナとゼンが海岸近くに引っ越してから数ヶ月たちました。クリスマスは11人しかいなくて静かなものでした。私は2ヶ月前にプリンを2つとクリスマス用ケーキを作っておきました。そのケーキも半分は冷凍し、プリンも1つまだ残っています。クリスマスの日湿度が高く摂氏32度ありました。泳ぐには丁度いい暑さでした。次の日は急に15度になり、雨が降りました...多くではありませんが、私たちには雨が重要です。今日は、快晴の暖かい日です。父は貯水槽を2つ増やしました。全部合わせると5万2千ガロンの雨水を貯めることができます。

この時期の日中はセミが絶えず鳴いています。皆さんも知っていると思いますが彼らが生きている間、殆んど地中で過ごします。地中で17年間過ごすセミもいます。雄は膜を振動させて甲高い音を出し、雌を惹きつけようとします。父の兄が蝉の声は補聴器に響くと何年も前にブツブツ言っていたことを思い出しました。

私はまだ野生動物病院で定期的にボランティアとして働いています。動物たちに必要な手術や、治療をおこないます。その後、自然に戻るか、必要なときは安楽死させます。

病院に来た動物の中に、車にひかれたコアラの母親と赤ちゃんがいました。昨日、退院したばかりだったのに、その親子がまた車にひかれて今度は死にました。警察によると運転していた人が、レーンを越えて故意にその親子にぶつかったのだそうです。丁度、パトロールをしていた警官が見ている目の前で起きたことでしたが、この種の行為は犯罪にはなりません。残念です。

私にはウォータードラゴンのブリーダー資格があり、彼らを繁殖させています。ウォータータンクを半分に切ってもらって彼らが成長できる場所を作りました。そこで大きくなった後は、庭に放ちます。2ヶ月前から10個の卵を保温しています。1週間ぐらいで雛になります。1ヶ月半後には、2ダースほどが雛になることでしょう。

皆さんに愛を込めて

意識のコラム by マイケル



この原稿を書く前に前号のコラムを読み返しました。トリーニーの「死」と喪失についてでしたが、読んでみると、私は感情のことを、感情にまつわる基本的な真実を何も知らなかったと思いました。葬儀のときに書いた「トリーニーへの謝辞」も読み返しました。あれから7ヶ月ほど経ちます。並べられた感情的な言葉の中には、勇気がありました。書いていたときは、本当の意味やその深さについて何もわかっていませんでした。

まさか、謝辞が人々を励ますだけでなく、私自身も励ますことになるとは思っていませんでした。

トリーニーが亡くなった後、「これから発見の旅へと向かいますね。」と、何人かの人が私を励ましました。まったくその通りだと思いましたが、違いました。私は旅へ向かうのではなく、感情という檻の中にいるとは気づかないまま、そこに留まっていた。その中で、これまで存在することすら知らなかった感情を経験しました。想像すらできなかった感情と、感情からの表現についてたくさんのことを見出しました。

私自身についても、だから、あなたについてもさらなる発見をしました。

2007年のニュービギニングで私が見出したことを話すつもりです。ここでは、私がこれまで存在することも知らなかった内なるスペースを見出したことだけを伝えておきます。

大変素晴らしい存在たちが私の成長を手伝ってくれています。

まず1人目はパンです。この2年間、パンとの経験を「パンの目を通して」という題をつけて書いています。それは、メタフィジカルな自然への新しい旅についての本です。これまで経験したことのないレベルにおけるエネルギーの観点から書いているものです。少なくとも、始まりはそこからになっています。

トリーニーが亡くなってから数ヵ月後、彼女は、私がパンとつながっている瞬間に加わり始め、私の経験を完全に変えました。彼の目を通してメタフィジカルな自然の中を旅しているとき、それがひどく個人的なものとなり、私が精密に調べられ、私が私に直面させられているのです。自分の欠点に直面するしかなく、これまで存在すら知らなかった感情の檻の中で生きてきたことを見るしかありませんでした。ここで、詳細を書くつもりはありません。ニュービギニングで話します。

もう1人の存在が私の人生に登場することを、私は長い間否定していました。ヒラリオンといいます。ヒラリオンは第5光線のマスター(the Master of the Fifth Ray)であり、献身的な魂をもった素晴らしい、そして忍耐強い教師です。20年以上もの間、私はこの偉大な存在が、どうして気が進まない私のことにかまうのかいららしていました…今は、その理由がわかります。

この偉大な存在たちは、喪失感、悲嘆、悲しみは私の選択によるものであることを、私に優しく示し、直面させてくれました。感情の檻に留まるという選択です。何故檻かという、その選択は本当の意味での選択はなく、何も変化させることのない選択をしているに過ぎないからです。トリーニーが亡くなってから6ヶ月たって、トリーニーの「死」という贈り物は、これまで私がずっと入っていた檻の扉を開けるものであることに気づきました。

それは、12月11日のことでした。私は痛み、悲しみ、喪失から断続的に泣き続けていました。

丁度1週間後のことです。檻から出て、私はまったく新しい内なるスペースへと足を踏み出しました。そこには、喪失も傷みも悲しみも涙もありません。しかし、このスペースがこの瞬間の中に存在することだけは言えます。悲しいとかうれしいといったスペースではありません。なぜなら、両方ともこの瞬間に入ることのできない人間の感情だからです。このスペースは感情を超えています。そこは望み、必要性、利得とか喪失といったものではなく、とてもダイナミックでこれまで経験したことのない全面的な深い平安へと私を変えます。

そこではトリーニーが私と一緒にいるのです！彼女を見ることも触れることもできませんが、テレパシーでお互いに話し合うことができます。ある意味、これまでよりも彼女はもっと近くにいます。メタフィジカルなレベルで彼女に会いに行くこともできます。その抱擁は肉体の抱擁に比べるとかなり希薄ですが、深い意味の愛を伝えます。

彼女は今まで通り、私を教えています！彼女は言いました。「ねえ、あなたが過去の人生に留まるなら、そこには悲しみや喪失や幻想以外何も見出せないわよ。あなたが今を生きるなら、私たちの結婚でこれまで知らなかったことをはるかに超えるスピリチャルな質を、皆に分かち合うことができるわ。」

別の日には次のように言いました。「マイケル、あなたは、過去と未来の中に沈みこんでいるの。この瞬間の中だけしか立ち上がることはできないのよ。」

彼女が話したことは真実です。

彼女の知恵は私の人生に明るい光として輝き続けています。ニュービギニングの間、あなたたちにその光を分かち合えるよう願います。

あなたにもっとも必要なものを与えられる人が、それをあなたに与える。そのために、その人を、最愛の人を失わなければならない…思いもつかないことです。欲しいものではなく必要なものを、です！

トリーニーが活着している間に、私は、スピリチャルな成長を妨げる感情という監獄から決して出ることができなかつたのです。魂のレベルで私たちはこのことを分かっていました。そして、私たちにはスピリチャルな成長がこの人生における最優先でした。

今、トリーニーと私は新しい成長、新しい洞察、新たな冒険、新たな一体を分かち合っています。私の好きな歌手、ナナとアンキに新しい詩を書きました。彼らはオランダに住んでいます。

題は、「離れていても共に」(Together Apart)です。

離れていても共にある、いつも一つとして
 私たちは太陽の輝きのように生きる
 光と愛は一つであるものの二つの半分
 スピリットと真実が魂を表現する

離れているけれども共に愛し、成長するために
 ハートが語りかける真理に従う
 そして、太陽の輝きのごとく生きる
 離れていても共に
 いつも一つとして

伝えておきたいこと、それは、あなたと感情との関係は、あなたが考えているようなものではないことです。感情についてあなたが考えることと、感情がどこからくるのかは、かなり違いがあります。私たちの思考は、たいてい合理的ですが、感情はたびたび非合理的で非論理的なものになります。この非合理的な状態から考えるとき、思考は感情的な思考となります、つまり思考が非合理的な感情と一つになるのです。一度、感情的な思考が始まると一層ひどくなります。この状態では、論理的で分別のあるアドバイスも受け入れることはできません。

感情的な反応に対して、一緒になって反応することは分別のないことですが、よくあることです。夫婦の感情的衝突では特によく起きることです。

感情的な反応がなくても、男性と女性の視点は、性が違うだけで十分違います。そして、すべて反応は感情的です。思考が感情より先に起きますが、思考と感情はしっかりとつながっています。

思考と感情がそれぞれお互いを支持し高めるとき、感情と心のバランスが達成されます。それはあなたにとってプラスになります。

2006年度女神山でのリトリート参加者から

2006年長野のリトリートで、初めてマイケル・ローズ氏に出会いました。私がまず魅かれたのは、マイケルの正直さでした。最愛のトリーニーをなくしたばかりのマイケルは、その悲しみをストレートに表現し、そして、その出来事によってさらに学ぶべきことを知ったと言いました。そして、今は未だ学びの途中であるので、それを教えることはできないとも。

最初は深い悲しみの中にいたマイケルが、一日一日とその悲しみを、生きる喜びへと変容させていく様をみて、「生きる」という本当の意味を教えられました。言葉ではなく、マイケルの姿勢、そして行動が、直接私たちに意識の変容をもたらしたように思います。

マイケルの教えは日常生活そのものに密接して、その日常こそが完全であることに目を開かせてくれました。

またその教えは、私たちを自由に飛び立たせ、同時に、感謝と共に地に足を着けて生きることが可能だということも。

(個人的には、私のパートナーが、いかに美しく完璧な存在であるかということに気づかされました！)

マイケル自身が、今回はこれまでと違ってガイドラインを全く使わなかったと打ち明けたように、このリトリートは即興的であり、それゆえに非常にパワフルな気づきをもたらしました。

マイケルは真に覚醒の道を歩き続ける人だと感じます。「いいんだよ。私達はみんな人間なんだから」

全てを受け入れるこの言葉を聞いたときに、マイケルの人類に対する深い愛を感じ、そして私自身も大丈夫なんだと思わず微笑みます。

鼓みか

今まで人生を楽しんで来なかったことが分かりました。だから、人間を体験する・・・体験を楽しんでいます。

何でも感動でき楽しめる自分に出会っています。

村井由紀子

リトリートの初日、マイケルはトリーニーと彼自身に起きたことを話し始めました。内容は愛についてでした。その日の夕方、参加者の1人が、手を上げて「愛が何かわかりません。」と、彼女の感じていることを正直に話しました。マイケルは彼女に「子供のころ、両親から愛されていましたか？」と聞きました。「母親からは愛を感じなかった。父親からは言葉では言われたことがないけれども態度で愛を感じていたと思う。」と、彼女は答えました。

翌朝、マイケルは皆の前に椅子を1つ置いて、彼女に座るように言いました。それから、私たちに向かって、彼女に愛を感じる人は、彼女のところへ行き、目を見て、本当に愛を感じたとき「心からあなたを愛しています」と伝えるようにと言いました。魔法の時間でした！一人一人の心の中で何かが置きはじめていました。

迷うことなく彼女のところへ行って愛を伝える人、愛していますと言う価値が自分にはないかもしれないとしばらく葛藤でためらう人もいました。でも、皆、それぞれに自分と向き合い、愛に触れました。愛の人になりました。皆、愛を感じて、愛の涙を流しました。部屋のエネルギーは高くなり、愛が満ち溢れていました。

誰もが本当の自分に、自分の中にある愛に触れているようでした。

5日を通して、マイケルのエネルギーが私たちに触れ、1つにつながり、変化しているマイケルによって、リトリートがリトリートではない新しいものになっていました。インナーエクササイズもこれまでとは違う新しいものでした。とてもパワフルで素晴らしいものばかりでした。マイケルはオープンで、正直で、無防備で、愛そのものでした。

その中で、より深い愛と信頼を経験し、自信をもってさらに力強く真理を生きる人、愛と真理に触れて、自分の真理を歩き始めた人、この5日間は誰にとっても「新しい始まり」だったと思います。

参加者の多くがトリーニーの愛とサポートを感じました。マイケル、トリーニーに感謝します。 大亀安美